



おんがく

2月19日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

2月19日のおはなし「おんがく」

よくギターをもらう。
「これ、いらなくなったから、やるよ」
なんて軽いノリから
「お前のためにさんざん探しまわってやっと見つけたんだ。デヴィッド・ラッセル・ヤング、1971年製作。彼のドレッドノートのプロトタイプだ」
なんて重いノリ、もらったこっちの気が重くなるようなものまでさまざまだ。

ダブルネックのギターというものの存在も、それをもらったから知ったようなものだし、やたら弦だらけの11弦ギターについても、そうだ。11弦ギターをもらった時は、何かの手違いで弦だらけになっちゃったのかと最初思ったけど、そうじゃないらしい。説明を聞くと、ルネッサンス期にリュートで弾いていた音楽を再現するために必要なんだそうだ。説明を聞いても、ふーん、そうなんだ、くらいにしか思わない。ちなみにうちにはあと、10弦と、8弦と、7弦のギターがある。7弦でも十分珍しいと思うんだけど、10とか11の前だとかすんでしまう。

その辺はまだいい。ダブルネックも、7弦も、8弦も、10弦も、11弦も、ちゃんと演奏目的がある。でも、明らかに「そういうのをつくりたいからつくった」というだけのギターももらう。トリプルネックのギターをもらった時にそう感じた。さすがにわたしがげんなりしたのがわかったのか、相手の男は必死になってトリプルネック・ギターがいかにかすごいのか、その演奏者がどんなに素晴らしい演奏をするかを力説して帰っていった。後からわざわざデヴィッド・リー・ロスのCDまで送って来た。CDだとネックの数はわからないと文句を言ったら、DVDが届いた。デヴィッド・リー・ロスがトリプル・ネックのギターを弾くわけではなかったみたいだ。

しばらくして、わたしがトリプルネック・ギターを持っていると知った別な男の一人がネックが3本で弦が42本あるアコースティック・ギターをくれ、また別な男は4本ネックのギターとジェネシスのライブビデオをくれ、またまた別な男は「レプリカで悪いんだけど」と申し訳なさそうにしながら5本ネック・ギターをプレゼントしてくれた。そんなことで申し訳ながらでも困るんだけど。っていうか、別にわたしは5本ネックのギターが欲しい訳じゃないんだしさ。

自動調弦するギター、温度によってボディの色が変わるギター、ネックが伸び縮みするギター、柔らかいギター、ハンマーで叩いても壊れないギター、絶対零度でも演奏できるギター、摂氏400度までは演奏可能なギター、砂嵐の中のライブでもちゃんと演奏できた実物のギター、ジョン・レノンが手に取った（店で3分くらい手に取った）ギター、坂崎幸之助が友人にプレゼントしたギターなどなど、わたしの住んでるワンルームマンションはところ狭しとギターだらけになってしまった。置き場所に困ると文句を言うと、わざわざわたしの隣の部屋を借り上げて家賃を払ってくれてギターの展示室にしてくれた男までいる。

この話の最大の問題は、わたしはギターが全く弾けないし、そもそもギターなんかには全然興味がないということだ。男たちはわたしの部屋に来て、セックスをする前にギターを手に取って自慢のフレーズをつま弾いて、セックスが終わった後にもお気に入りのギターを手に取って、自慢のフレーズをつま弾く。「バッカじゃないの？」と思うけど、もちろんそんなことは口には出さない。

わたしが関心するのは彼らの指だ。弦楽器を弾くためにトレーニングした指だ。その指でわたしの身体をくまなく探らせること。それだけだ。よく鳴るポイントを探し出し、そこでじっくり快感を引き出す。指づかいこそが彼らの役割なのだ。もしも指づかいがおろそかだったりすると、わたしはそいつのお気に入りのギターを振り上げて叩き割るマネをすることがある。そんな時、男のものが一瞬にしてしぼんでしまうのはとてもおかしい。コミカルなマジックみたいだ。わたしの中において、今のいままではち切れそうだったのが、お気に入りのギターが粉碎されそうだった瞬間にふにゃふにゃにしぼんで存在を消してしまう。わたしは吹き出しそうになる。もちろん笑わないけどね。

いまわたしが一番気に入っている指の持ち主からは、まだギターをもらわない。もらわなくていい。彼は若いし、貧しいし、まだ何者でもないからだ。でも彼はたった一本のギターを大事に大事に弾きこなし、その日のギターの機嫌も、音の張り具合も、メンテナンスの必要も、弦の張り替えの時期もすべてその指と耳で感じ取っている。指と耳だけで！ わたしの身体に対しても同じようにできるのは彼だけだ。指と耳でわたしを感じ取り、最高のおんがくを引き出してくれる。彼はわたしの部屋に来ても、部屋のギターを手にとろうとしない。自分のギターを弾くのもわたしが頼んだ時だけだ。だからわたしは彼の前だけで彼の好みのギターになってあげる。彼の11本の指で、彼の思いのままの音楽になるんだ。

(「ギターをもらう」 ordered by HIRO-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

おんがく

<http://p.booklog.jp/book/44285>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44285>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44285>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.